

授業科目名	日常生活活動学	授業形態	講義	配当学期	2年（前期）
担当教員名	成瀬 信平	単位数	1単位	時間数	30時間
授業概要 学習目標	<p>〔授業概要〕</p> <p>日常生活活動における各活動を正常なところから捉えていきます。自分や周りの友達、両親、兄弟などさまざまなひとの活動を分析する力を身につけていきます。そこで、正常なところでの幅を理解します。</p> <p>〔学習目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日常生活活動の概念・分類・範囲について理解する。</li> <li>2. 日常生活活動の評価方法を理解する。</li> <li>3. 基本動作の活動を詳細に分析することができる。</li> <li>4. 日常生活活動の各活動について説明できる。</li> <li>5. 日常生活活動においてプログラム立案のための方法論を説明できる。</li> <li>6. 日常生活活動においての環境面にも目を向けることを理解する。</li> </ol>				
授業回数	授業内容				
第 1 回	日常生活活動の概念とその範囲				
第 2 回	日常生活活動別の評価				
第 3 回	日常生活活動別の支援システム				
第 4 回	障害別日常生活活動の援助の実際（脳卒中）				
第 5 回	障害別日常生活活動の援助の実際（脊髄小脳変性症）				
第 6 回	障害別日常生活活動の援助の実際（筋萎縮性側索硬化症）				
第 7 回	障害別日常生活活動の援助の実際（頸髄損傷）				
第 8 回	障害別日常生活活動の援助の実際（胸腰髄損傷）				
第 9 回	障害別日常生活活動の援助の実際（関節リウマチ・大腿骨頸部骨折）				
第 10 回	障害別日常生活活動の援助の実際（脳性麻痺）				
第 11 回	障害別日常生活活動の援助の実際（上下切断）				
第 12 回	障害別日常生活活動の援助の実際（進行性筋ジストロフィー）				
第 13 回	障害別日常生活活動の援助の実際（パーキンソン病）				
第 14 回	障害別日常生活活動の援助の実際（高次脳機能障害）				
第 15 回	障害別日常生活活動の援助の実際（認知症）				
評価方法	小テスト・レポート課題（20%）、定期試験（80%）				
教科書 参考図書	〔教科書〕 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト「日常生活活動学（ADL）（改訂第2版）」 脳卒中患者の機能評価 SIASとFIM（金原出版）				
	〔参考図書〕 作業療法技術ガイド 第3版（文光堂）				
履修上の 留意点	障害学の基本的な知識については、各自、授業前に整理し授業の準備をすること。 また、運動学の中の動作分析についても、各自復習しておくこと。				
メッセージ	ADLを観る技術は臨床でのOTにとってなくてはならないものです。対象者は十人十色ですので、まったく同じ動作にはなりません。幅広くとらえる力を身につけてください。				